

## 浅草岳山行記録



目的地	浅草岳	期 日	平成17年5月6日(金)
山人	笠原正雄・澄子	特 記	4日だけ休みのGWだったが、有休をとっての山行。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与板	午前5:00発	薄曇	古正寺で買い残しの食料を買って、越路経由でR17に行く。
大自然館 P	7:00～7:40	〃	大自然館でコースを聞き、林道に行くことにする。神戸No.の50才半ばの親子来る。一緒に登りましょうと声をかける。すぐ林道上の雪道に上がる。
右沢橋	8:30	〃	左岸から右岸の道に変わり、支沢の「ろ久う橋」を渡る。雪の下は舗装道だ。
電柱	8:50	〃	右へ90度折れる。親子来る。息子は情緒障害者だ。地図で位置を確認。
雨量計施設	9:00	〃	円筒ドラムの橋を渡り、林道がやや判別しにくくなり始める。展望台が見えた。その方向を目指す。踏み後も不鮮明。この後4人で歩く。
展望台	9:45～10:05	〃	杉林間を直登して、小高い丘の上。振り返ると守門が立派に見える。食べる。地図を広げ神戸人と前岳へのルートを検討する。白崩沢を超えて先へ行くこととしたが、この時点では、前岳と嘉平与ボッチへの尾根の判別が出来ていなかった。林道らしいと思うところを進み、白崩沢を超える直前でマーキングし、ポイント入力する。沢を超えて西方向へ進路を取る。
前岳尾根基部	11:20	〃	再度、地図で沢筋を確認し、東に進路を修正して、中折れの木を目印にポイント入力する。広尾根の登りで徐々に傾斜がきつくなる。
夏道へ	11:40	〃	雪斜面をキックステップで登り、ようやく夏道が現れた。ほっと一安心、しかし急登だ。途中右手の沢でブロック雪崩発生
軽アイゼン装着	12:10	〃	雪と夏道と交互だが、神戸人に先行してもらい、ここでアイゼンつける。
稜線に上がる	1:00	〃	夏道が隠れ、神戸人に追付き先行する。前岳を右手に見てルートを取りキックで登る。稜線越し最初に尾瀬燧ヶ岳が現われ、思わず歓声。
山頂	1:15～1:25	〃	少し風がある。手前の雪原のブッシュにデポし、雪の無くなり始めた湿原木道に上がる。神戸二人が先が上がっていた。守門の右手に大日・本山・三国山方面が意外に近く見える。やや曇っているが、来た甲斐がある。
昼食	1:30～2:10	〃	デポ地点で雪に座り、4人でランチタイム。
展望台下林道	3:20		時々来た道を離れて雪の上を自由にルート取りする。沢地に入った所で3人が滑って15m程流される。俺はトラバースする。ナビを見ながら快適に下りマーカーを回収。林道上を歩きここに来た。僅か路肩が見える。この直前林道と勘違いして沢上を歩いた。水音で気付き修正。少し踏み抜く。
雨量計施設	3:50		この建物が見えてから、再び自由ルートで下る。この後林道上を歩く。
大自然館 P	4:55		道中フキノトウを Get。朝は雪だった林道が数百 m 除雪されていた。白崩橋もすっかり姿を露出していた。閉店直後の洞窟風呂になんとか入浴。
与板着	7:30		R290 経由。川崎パルスで買物。こっち回り方が 10 km 以上近い。

五頭方面を検討したが、風の強い予報とこちらの方が崩れてくる時刻が遅いため、ここを選んだ。Pに着いた時、予想通り誰も居なかった。大自然館でコースを聞く。桜ゾネコースは無理らしい。そのうち神戸二人が来た。途中から彼らと行動を共にしたが、互いに心強い山行となった。二人だけだったら、途中で引き返したかも知れないと思う。

無雪期なら展望台 P から2時間のコースだが、夏に来たことのないコースで、ルート判断等で時間がかかり予想より1時間以上の5時間半の上山であった。ネズモチ平から稜線に上がるまでは急傾斜で登りである。

山は本日4人貸切で、たっぷり歩かせてもらい、静かにかつ充実の山行であった。しかし神戸父親は、山スキーの経験が豊富らしく、関西人特有か良くしゃべってくれて一時も退屈させない。